

**(5) カリキュラム企画運営会議****① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

カリキュラム企画運営会議は、学校教育学部及び学校教育研究科の教育課程の編成等に関して、改善・充実を図ることを目的とし、教育研究評議会に設置されている。

**イ 組織の構成及び構成員等**

カリキュラム企画運営会議は、①学長が指名した副学長若干人、②教務委員会から選出された者1人、③教育実習委員会から選出された者1人、④ファカルティ・ディベロップメント委員会から選出された者1人、⑤経営企画課長、⑥教育支援課長、⑦その他学長が指名した者で構成されている。

**② 運営・活動の状況****ア 委員会等の開催状況**

平成27年度においては、カリキュラム企画運営会議を9回開催した。

また、カリキュラム企画運営会議に第1WG及び第2WGを置き、平成27年度においては、第1WGを4回、第2WGを2回開催し、各WGが担当するカリキュラム改善の係る課題等について検討を進めた。

さらに、カリキュラム企画運営会議の専門部会として、「教科内容構成に関する科目」構築のための専門部会、「いじめ等予防対策支援プロジェクト」実施専門部会、「21世紀型能力」における「思考力等」検討専門部会及び小規模校における定常的な学年・学校連携プロジェクト企画委員会を置き、各所掌事項の企画運営を行った。

**イ 審議された主な事項**

- i) 平成27年度年度計画に係る実施計画及び自己点検・評価
- ii) 平成26年度実施大学機関別認証評価評価報告書における指摘事項への対応
- iii) 平成28年度における大学院修了要件区分の改正
- iv) 平成28年度教育課程の編成に関する取扱いの制定等
- v) 平成27年度都道府県等教育委員会との連携協議会
- vi) 平成28年度入学者に係る教育課程の一部変更
- vii) 学部履修規程、大学院履修規程及び教育職員免許取得プログラム履修取扱細則の一部改正
- viii) 教科内容構成に関する科目のテキストの発行
- ix) 再入学規定の制定及び学則の一部改正
- x) 成績評価に対する異議申立てに関する取扱細則の制定
  - x i) 「21世紀型能力（21世紀を生き抜くための能力）」の育成に係る報告書
  - x ii) 「教科内容構成に関する科目」構築のための専門部会細則の一部改正
  - x iii) 小規模校における定常的な学年・学校連携プロジェクト企画委員会細則の廃止
  - x iv) 平成27年度「教育の成果・効果に関する調査」（専門職学位課程修了予定者対象）の実施

**ウ 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等**

- i) 平成28年度から大学院学校教育研究科の機能強化を図るため、各専攻コースの教育内容を見直すことにより、コース名称を変更することに併せて、募集人員も変更することとしたため、平成28年度における教育課程の大幅な見直しについて審議を進め、その結果に基づき大学院履修規程を

改正するとともに、平成28年3月に文部科学省に課程認定変更届を提出した。

- ii) これまで第1WGにおいて喫緊の検討課題としていた再入学について、同WGで2回、本会議で2回の審議を重ね、上越教育大学学校教育学部及び大学院学校教育研究科再入学規程（案）をとりまとめ、教務委員会に提案した。
- iii) 平成26年度に実施の大学機関別認証評価の評価報告書において改善を要するとされた事項への対応として、本会議における3回の審議を経て、上越教育大学学校教育学部及び大学院学校教育研究科における成績評価に対する異議申立てに関する取扱細則（案）をとりまとめ、教務委員会に提案した。

### ③ 優れた点及び今後の検討課題等

#### ア 優れた点

- i) カリキュラム企画運営会議がとりまとめ教務委員会に提案した「上越教育大学学校教育学部及び大学院学校教育研究科再入学規程」及び「上越教育大学学校教育学部及び大学院学校教育研究科における成績評価に対する異議申立てに関する取扱細則」が、同委員会を経て教育研究評議会において承認・制定された。
- ii) 大学改革委員会の依頼を受けて、本会議に専門部会を設置しとりまとめ、同委員会に提出した「21世紀型能力（21世紀を生き抜くための能力）」の育成に係る報告書が、同委員会において内部資料として発行された。
- iii) カリキュラム企画運営会議に置かれている「教科内容構成に関する科目」構築のための専門部会により、学部での「教科内容構成に関する科目」の実績を生かし、平成28年度に修士課程において、『教科内容構成特論「国語」』をはじめ12科目を新規開設することとした。また、『教科内容構成特論「英語」』、『教科内容構成特論「社会」』、『教科内容構成特論「理科」』、『教科内容構成特論「音楽」』、『教科内容構成特論「技術」』、『教科内容構成特論「家庭」』、『教科内容構成特論「道徳」』及び『教科内容構成特論「総合的な学習の時間」』については新規開設に併せて、使用するためのテキストを作成した。更に、学部における「教科内容構成に関する科目」を充実させるため、平成28年度に免許法上の科目（教科又は教職に関する科目）とし、『教科内容構成「総合的な学習の時間」』を新設することとし、併せて使用するためのテキストを作成した。

#### イ 今後の検討課題

中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」が、平成27年12月21日に公表された。以下に掲げる事項について今後どのようなスケジュールで本学の教育課程に反映するのが課題となるが、大学改革とのスケジュール調整等を踏まえ対応していく必要がある。

- i) 新たな課題（英語、道徳、ICT、特別支援教育）やアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善等に対応した教員養成への転換
- ii) 「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の統合など科目区分の大括り化

また、平成28年3月28日の全学教職員集会において、学長から今後の大学院改革の方向として、教員のための大学院として蓄積してきた修士課程の教育研究機能を専門職学院課程に発展的に移すことにより、新たな専門職学位課程として第3期中期目標期間中に改組することが示された。そのため、大学改革戦略会議からグランドデザイン（教育組織や教員組織）が学内に示された段階で、新たな教育課程の編成や教育の質的改善に資する事項について、本会議の他に教務委員会、教育実習委員会及びFD委員会において検討していく必要がある。

現在、大学改革委員会において「21世紀型能力（21世紀を生き抜くための能力）+ $\alpha$ 」を備えた教員養成に資する教育課程編成について検討が進められており、大学改革委員会の依頼に基づき、平成28年2月19日開催のカリキュラム企画運営会議において「21世紀型能力（21世紀を生き抜くための能力）」の育成に係る報告書を取りまとめ、大学改革委員会に提出したところである。そのため、大学改革戦略会議から「21世紀型能力（21世紀を生き抜くための能力）+ $\alpha$ 」を備えた教員養成に資する教育課程編成の趣旨・目的等を含む構想が学内に示された段階で、新たな教育課程の編成や教育の質的改善に資する事項について、本会議の他に教務委員会、教育実習委員会及びFD委員会において検討していく必要がある。